

### TOPICS 3 社会医療法人ペガサス ペガサスロイヤルコンテストを開催

#### 習字、折り紙など 100点近い作品を展示。

6月5日、第5回ペガサスロイヤルコンテストが開催されました。このコンテストは、患者さまやご利用者がリハビリテーションの一環で作った作品や、趣味で芸術を楽しむ地域の皆さまの作品を展示。来場者の投票により、優秀作品が選ばれるものです。

今年も、習字、折り紙、絵画、俳句、工芸

品など100点近い作品の応募があり、来場者の皆さまは、思い思いに展示作品を楽しんでいました。

今年度、数ある作品の中から金賞に選ばれたのは、デイサービス雅老園のご利用



金賞受賞作品

者の作品です。チャーミングなトイプードルを描いた油絵に、多くの票が集まりました。

### TOPICS 4 社会医療法人ペガサス 多職種合同説明会を開催

#### 事業拡大を見据えスタッフを募集!

社会医療法人ペガサスでは、2020年4月の事業拡大を見据え、積極的にスタッフを募集中。より多くの皆さんに当法人を知っていただくために、月に一度の多職種合同説明会を開催しています。4月～7月

の説明会では、参加者の皆さんと有意義なお話ができ、当法人への就職を前向きに検討されている方もいます。

ぜひあなたもこの機会にご参加ください。



合同説明会開催日時  
10月24日(木) 午後2時～4時

#### ペガサス健診センターの ご案内

お問い合わせ / 072-265-6006

ペガサス健診センターは、最新鋭の医療機器を使用し、適切な診断を提供しています。一般健診・企業健診、人間ドックなど、多彩なメニューからお選びいただけます。



#### ペガサス地域包括ケアセンター

場所：馬場記念病院 総合案内横

時間：平日9時30分～12時まで

健康のことから在宅介護まで。多様なニーズに対応する「なんでも相談」窓口を設置しています。まずはお気軽にご相談ください。

お問い合わせ / TEL:072-265-5558 (担当 橋口)

「なんでも相談」  
窓口あります



#### ペガサスグループ 株式会社ユニコ

取り扱う紙おむつは  
148種類。  
大幅な値下げも  
実施中です。



堺市  
紙おむつ  
給付券  
OK!

●お問い合わせ  
TEL:0120-062-505

#### 私たちと一緒に働きましょう。

随時受付  
しています

#### 介護職員募集中! 正職員採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

#### 障がいをお持ちの方、一緒に働きませんか

※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃 D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ / 馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089



社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ  
<https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus>

## seminar

### 9月 ペガサスセミナー

「あなたは大丈夫？」  
～身近に潜む生活習慣病について～

講師：臨床検査技師 平田 泰生  
日時：9月26日(木) 午後2時～3時  
場所：馬場記念病院 1階ロビー

### 10月 ペルセウス介護 支援セミナー

上手に介護サービスを利用して、  
住み慣れた自宅で安心した  
生活を送りましょう!  
～デイサービスの活用について～

講師：介護福祉士 今西 宗  
日時：10月3日(木) 午後2時30分～  
場所：介護療養型老人保健施設  
ペルセウス3階食堂

### 9月 ペガサスセミナー 和泉

認知症サポーター  
養成講座

講師：CSW 井上 香織  
介護支援専門員 川西 恵子  
日時：9月26日(木) 午後2時～3時15分  
場所：介護療養型老人保健施設エクス

### 10月 ロイヤルリゾート 健康相談会

認知症予防について

日時：10月9日(水) 正午～  
場所：ペガサスロイヤルリゾート

#### ペガサスマンモサデー

開催予定

【開催日】(予定)  
10月20日(日)  
【開催時間】  
9時～17時

【お問合せ】

TEL:072-265-6006  
(ペガサス健診センター)

# PEGASUS NEWS



## ペガサスニュース

発行人 / 馬場武彦  
発行 / 社会医療法人ペガサス  
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244  
<http://www.pegasasu.or.jp/>  
編集 / ペガサス広報委員会 編集グループ  
編集協力 / HIPコーポレーション  
発行 / 令和元年9月27日

Vol.87

## ペガサスから地域の皆さまへ

### ペガサスロイヤルリゾート石津に入居している方々に 24時間の安心を届けるために、法人内の連携を強めています。

#### ●同じ建物内に医療・看護・介護機能を集約。

社会医療法人ペガサスでは、2カ所のサービス付き高齢者向け住宅を運営し、介護の必要な高齢者、障害者の方に、ご自宅で暮らす満足を提供しています。

その一つ、ペガサスロイヤルリゾート石津は、「診療所」「デイサービスセンター」「ケアプランセンター」を併設。加えて「訪問看護ステーション」とも連携し、多職種がチームを



ペガサスロイヤルクリニック 中林孝之院長による往診

組んで、ご入居者の日々を支えています。「同じ屋根の下で多職種が情報共有できて、フットワークよく対応できるのが私たちの強みです」。そう話すのは、併設診療所「ペガサスロイヤルクリニック」の中林孝之院長です。「日中は、デイサービスに常駐する看護師が、ご利用者の体調管理や吸引、胃ろうのケアなどを行います。また、デイサービスを使わず、お部屋で過ごす方には、ヘルパー、訪問看護師が訪問したり、クリニックの看護師や私が往診しています。インフルエンザの予防接種を往診して行ったり、ノロウイルスの予防に取り組みなど、感染対策にも力を注いでいます」と中林院長。

その万全の医療体制は、夜間にも引き継がれます。夜間は、緊急コールを押せば職員が居室まで駆けつけ、必要に応じて、24時間365日、中林院長の携帯電話にオンコールで繋がるようになっていきます。さらに、緊急時は馬場記念病院へいつでも搬送できる体制です。

#### ●将来的には夜間、馬場記念病院の看護師を派遣。

現在、ペガサスロイヤルリゾート石津では夜間の看護師常

駐はありませんが、いずれは常駐する計画を進めています。すでに、もう一カ所のペガサスロイヤルリゾート(神石)では、馬場記念病院から病棟看護師を派遣する取り組みをスタート。夜間、吸引やオムツ交換などを必要とするご入居者を、看護師が支えています。

その目的について、馬場記念病院の看護部長・正本恵子は次のように話します。「ご入居者にとって、看護師の24時間常駐は大きな安心に繋がると思います。また、看護師は医療と介護を繋ぐキーパーソンでもありますから、夜勤の看護師を配置することにより、多職種の連携も深まるのではないのでしょうか。その一方で、施設での看護実践は、当院の看護師にとっても、退院後の<生活の場>を知る貴重な機会になります。病棟にはわからない在宅療養の実態を知ること、生活への意識が高まります。その経験をより良い看護に活かしていけるのではないかと期待しています」。



馬場記念病院  
看護部長 正本恵子

#### ペガサスロイヤルリゾート石津

入居者募集中!



社会医療法人ペガサスがお届けするペガサスロイヤルリゾート石津。介護の必要な高齢者、障がい者の方に、病院や施設ではなく、「ご自宅」で暮らす満足をご提供します。

所在地 / 大阪府堺市西区浜寺石津町東1-3-31  
フリーダイヤル 0120-565-878 (お客様相談室)

このドクター、この治療

手外科専門医

no.4

福田 誠医師に  
お話を聞きました!

# 高齢者に多い手首の骨折に対し、最新の治療を提供しています。



Profile

**福田 誠**  
馬場記念病院 整形外科副部長  
日本整形外科学会専門医  
日本手外科学会専門医

## ロッキングプレートを用いて手首を固定する手術。

骨が大きすぎていない場合、ロッキングプレートという金具を用いた手術を行います。これは、手首の皮膚を切って、折れた骨を修復して正しい位置に戻してから、プレートをスクリュー（ネジ）で留めて固定するものです。手術に要するのは、1~2時間程度。全身麻酔が必要な場合は、短期入院していただきますが、手だけの部分麻酔の場合は日帰り手術も可能です。

手術後はできるだけ早く手のリハビリテーションを始め、日常生活に困らない程度の回復をめざしていきます。そして、およそ1年間を目安に、定期的に受診していただいて経過を観察します。なお、ギプス固定の場合も、手指を動かすなどのリハビリテーションに取り組んでいただいています。

## 普段から適度に運動して骨折しにくい体づくりを。

橈骨遠位端骨折は、中年以降（閉経後）の女性が、転倒し手をついて骨折するケースが多く、骨粗しょう症で骨がもろくなっている場合は、通常よりも骨が折れやすくなります。

骨折を防ぐには、普段から適度な運動と健康的な食生活を心がけ、骨折しにくい体をつくるのが大切です。また、これまで骨粗しょう症と診断されたことのない方は、ぜひ一度、骨密度の検査をおすすめします。最近では、骨粗しょう症の治療薬も増えていますから、しっかり服用して骨量の減少を抑え、骨折予防に取り組んでほしいと思います。



ロッキングプレートによる固定

## 橈骨遠位端骨折とは。

高齢者に多い手首の骨折を、専門用語で「橈骨遠位端骨折（とうこつえんいたんこっせつ）」と言います。橈骨は、前腕の2本の骨のうちの一つ。それが、手首のところ（遠位端）で折れるものです。転んで手をついたときに起きやすい骨折で、手首の強い痛みと腫れが見られます。ずれがひどくなると、変形することもあり、早めの受診が必要です。

診察ではまずX線検査をして、骨のずれ具合を確認し、手術が必要か、ギプス固定が適切かを判断します。手術が必要な場合、さらにCT検査で骨折の状態を詳しく調べます。

# エキスパート | 手外科に強い作業療法士

シリーズ no.16

## 「生活する手」を取り戻すために。

### 橈骨遠位端骨折は手術後のリハビリテーションが大切。

私は作業療法のなかでも、特にハンドセラピー（肘から指先のリハビリテーション）を専門分野としています。ハンドセラピーの分野では、手術で50%、リハビリテーションで50%の治療効果があると言われてます。手術後、早期から適切なトレーニングを行うことによって、癒着を最小限に防いだり、

関節可動域制限をなくすことができます。

橈骨遠位端骨折の場合も、早期リハビリテーションが大事です。当院では、手術前から、できる範囲で自主訓練を始めていただき、手術の翌日から主治医の指示にしたがって、本格的なリハビリテーションをスタート。まずは手の動きや感覚、筋力などの機能を評価し、可能な範囲で関節可動域訓練を行っていきます。また、必要に応じて、常温で硬化する特殊なプラスチック素材を用いて、患者さまの手や前腕に合

わせて装具を作るケースもあります。

日々のハンドセラピーで大切にしていることは、受傷前の生活を把握し、それぞれの「生活する手」を取り戻すこと。たとえば、学生や社会人はどんなスポーツや仕事をしていたか、高齢者なら、どんな余暇活動を楽しんでいたか…など。個々の生活に合わせ、受傷した手を自然と使えるようにサポートしています。



リハビリテーション部  
金城 聡

## TOPICS 1 ペガサスグループ 平成30年度「ペガサス優秀賞」発表

### 馬場記念病院・外科の木下春人医長が「ペガサス優秀賞」を受賞しました。



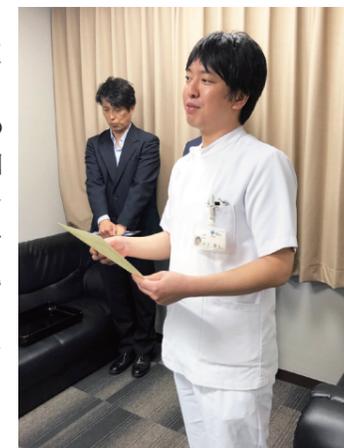
#### ●熱心な論文投稿・学会発表が高く評価。

「ペガサス優秀賞」は、特に目覚ましい活躍をした職員に贈られる賞で、歴代受賞者は5名。ここ5年間は、受賞者ゼロの状態でした。その空白を破り、馬場記念病院・外科の木下春人医長が平成30年度の「ペガサス優秀賞」を受賞しました。受賞の主な理由は、熱心な臨床研究活動に対する評価です。木下医師は平成29年度の1年間で、英語論文を含む論文3編、学会発表5本を行いました。研究のテーマは『初回生検時に吸引式乳腺組織生検を行う臨床的意義』『90歳以上の超高齢者に対する消化器

外科手術症例の検討』『当院における腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術 (LAPEG) の経験』など。5年ぶりの受賞に、木下医師は「大変光栄に感じております」と感想を述べています。

#### ●臨床研究を通じ、常に最新の治療を患者さまへ。

木下医師が論文や学会発表に力を入れる理由は何でしょうか。「やはり新しい治療法の追求です。学会などで、当院で得られた臨床研究データを発表することにより、他の先生方より良い治療法について討論できます。また、他の先生方の発表から、新しい気づきを得ることも多くあります。そうして学んだ知見を患者さまに還元できるように、標準的な治療に加え、新しい治療法も積極的に提案しています」と、木下医師。今後の目標については「引き続き論文と学会発表に力を入れたいですね。また、院内の勉強会にも力を注ぎ、チーム全体の診療レベルを高めていきます」と、力強く抱負を語りました。



表彰を受ける木下春人外科医長

## TOPICS 2 馬場記念病院 看護師向け専門誌『脳の看護実践』に掲載

### 脳卒中発症予防・再発予防について職員が執筆した原稿が掲載されました。

#### ●脳卒中看護などの取り組みを、外部へ積極的に発信。

馬場記念病院の看護部では、研究会や講演会などの活動を通じて、情報発信に力を注いでいます。その一環として、今年、前編・後編の2回に分けて、看護師のための専門誌『脳の看護実践』に、当院の職員が執筆した原稿が掲載されました。きっかけは、出版社（日経研出版）からの依頼でした。担当した坂本亜沙子（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）は、「当院の取り組みや成果を発表する好機と考え、快諾しました」と話します。前編では、脳卒中の危険因子や治療など、主に動向や地域住民向けの講演及び健康教育について坂本看護師が執筆。後編は、病院全体で取

り組んでいる再発予防・就労支援について紹介するために、PFM推進室、ペガサス地域包括ケアセンター、医療福祉相談室の各代表者に執筆の協力を依頼しました。

#### ●これからもチームで脳卒中患者さまを支えていきたい。

坂本看護師が後編で、他部署に原稿を依頼したのは、「脳卒中患者さまの支援は多角的なサポートが必要となるから」だといいます。「脳卒中のうち8割の患者さまは障害を抱えます。とくに昨今は若年者の脳卒中が増えています。そこでペガサスでは、就労継続支援B型事業所GAROを開設し、働き世代の社会復帰を支援しています。さらに独自の就労支援プログラムを用いて、当法人で働くことも積極的に呼びかけています。このように、脳卒中を患った方たちが活躍できる場所を用意したうえで、地域での生活を見据えて支援し、ともに頑張るところが、ペガサスの大きな魅力です。今後もそういう活動に力を入れるとともに、こうした専門誌への投稿や研究会などを通じ、外部に発信していきたいと思っています」（坂本）。



坂本亜沙子  
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



坂本看護師らの執筆原稿が掲載された『脳の看護実践』